

2024年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
<p>「学ぶことの楽しさを味わい、生きる力を身に付ける学校」にするために、「わかる授業」「質の高い授業」の実践とそのための研修を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究の充実と日常の授業へのフィードバック(研究テーマに即した授業の日常実践)を行う。 ・児童に基礎・基本の学力を身に付けさせる。 ・学習の基本の「読む」「書く」「計算する(数える)」を着実に身に付ける。 ・朝読書、読み聞かせ、図書館指導を充実させ、読書することの楽しさを実感させるとともに、児童一人あたりの読書量を増やす。

授業改善の重点
<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが主体的に学習に取り組めるように学習の見通しを立てたり、対話によって自分の考えを広げたり深めたりする場面をどこに設定して授業を進めるかなどを考え、対話活動による協同的探究学習を行い、授業の構造化を進める。 ・児童に基礎・基本の学力を身に付けさせるために、少人数授業・相互授業観察などを行い、「わかる授業」「質の高い授業」を実践する。 ・学習の基本の「読む」「書く」「計算する」を着実に身につけさせるために、家庭学習を重視し、反復練習に取り組めるようにする。 ・朝読書、読み聞かせ、図書館指導など読書の機会を増やし、進んで読書しようとする態度を養う。

各教科の指導の重点	国語科	音楽科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点
	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで話したり、聞いたりする能力を育てる。 ○文章を書く能力を身に付けさせ、適切に書くこととする態度を育てる。 ○読書を通して考えを広げたり、深めたりしようとする態度を育てる。 ○平仮名・漢字の反復練習に取り組み、言語の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○どの単元で協同的探究学習を行うか計画し、授業の構造化をはかることで、音楽的な知識・技能の表現を高める。 ○歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の活動を通して、知覚・感受したことを言語で伝え、音楽的思考力・判断力を育む。 ○学校内外の音楽活動に主体的に関わっていく態度を育成し、生活の中の音楽に関わる資質・能力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付ける。 ○実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析することができるようにする。 ○探究的な学習に主体的・協働的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるようにする。 ○自分の考えを基に、話し合ったり書いたりするなどの言語活動を充実させ、身近な社会的課題について、多角的・多面的に考えられるようにする。 ○問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習などを適切に取り入れ、指導方法を工夫する。
	社会科	図工科		
	<ul style="list-style-type: none"> ○我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てる。 ○社会的事象の意味について考える力を育てる。 ○調べたことや考えたことを表現する力を育てる。 ○インターネットや図鑑などの資料を活用した調べ学習の機会を増やし、資料を読み取る力を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が見通しを持って活動できるよう、計画的な板書を行う。 ○児童が考えを深め、児童なりの新しい意味を持った作品に表すことができるよう、互いの発想を認めあう対話的な学習活動を行う。 		
	算数科	家庭科		
	<ul style="list-style-type: none"> ○算数的活動の楽しさや数理的な処理の良さに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。 ○算数的な活動を通して、数量や図形についての基礎的な知識及び技能を身に付けさせる。 ○四則計算の反復練習に取り組み、基礎基本の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活に関する実践的・体験的な活動を通して、自分の成長を自覚するとともに、家庭生活への関心を高める。 ○日常生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能を高める。 ○家庭生活をより良くしていくための実践的な態度を育てる。 	特別活動の指導の重点	外国語活動(3・4年)の指導の重点
	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。 ○集団や自己の生活、人間関係の課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成を図ることができるようにする。 ○自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活および人間関係をより良く形成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを体験させる。 ○積極的に話したり、聞いたりするための指導の工夫を図る。 ○日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの考え方に気付かせる。 		
	理科	体育科		
	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決的な学習に繰り返し取り組むことで、問題解決力を育む。 ○実験観察を増やすことで、理科に対する興味関心を高める。 ○実験器具の扱い方や実験観察の技能を定着させる。 ○体験から理科の見方・考え方を養い、それを表現する活動を増やすことで、思考力・表現力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。 ○運動量を確保し、体力向上を図る。 ○心の健康、怪我の防止や病気の予防について理解し、健康で安全な生活を営む能力を育てる。 		
	生活科	外国語科(5・6年生)		
<ul style="list-style-type: none"> ○身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんだりすることができるようにする。 ○自分自身を見つめることを通して自分の生活や成長、身近な人々の支えについて考え、自分のよさや可能性に気付き、自信を持って生活するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎回の授業で体験的な活動を2回入れることで、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を目指す。 ○ALTを中心に発声を楽しむ機会を増やし、基本的な表現に慣れ親しむ。 			

	授業の構造化	話し合い活動の工夫	校内研究と相互授業観察の充実
本校の授業改善に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の構造化を進め、どの発達段階・教科においても対話を通じた学び合いの授業ができるようにする。 ○個別学習・ペア学習・グループ学習・全体共有などの対話活動の流れを統一する。 ○友達の考えを聞いて、さらに自分の意見を再構築できるような活動を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えをもち、進んで話し合いに取り組むことができるようにする。 ○話し合う視点の明確化や、立場や役割を決めることで、児童一人一人が目的をもって話し合いに臨めるようにする。 ○話型や話し合いの仕方を掲示し、話し合いが深めるようにする。 ○話し合いメモなどの思考ルールを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研究会や相互授業観察などを通して、「わかる授業」「質の高い授業」を追究していく。 ○校内研究を「互いの考えを認め合い、学び合う児童の育成～主体的・対話的な活動を通して～」を通して～としたことから、児童が主体的・対話的に学ぶ授業を実践できているかを教職員が日常的に意識して、授業改善を行う。そのために校内研究の成果や課題を確実に日常の授業にフィードバックしていく。